広報 九州
国民の森林・国有林
平成29年11月10日
（2017年）
No.1749
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁2－7
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

森林・林業の技術交流発表大会を開催

産学官の森林・林業関係者が一同に会し日頃の研究や取組の成果を発表

10月17・18日の両日に渡り、くまもと県民交流館パレアにおいて「平成29年度森林・林業の技術交流発表大会」を開き、九州地域各県の森林・林業関係者や森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など両日で約250人が参加しました。

発表大会では、それぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる、林業技術の開発・改良や木材需要の拡大、普及指導業務の実施例、業務改善や収益性の改善など地域における林業の活性化と林業技術の向上につながる38課題（一般の部30課題・高校生の部8課題）の発表がありました。（2・3頁に入賞課題と発表者を掲載）

３８課題の発表があった森林・林業の技術交流発表大会

この発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行い、流域の森林・林業の活性化を図ることを目的とし開いているもので、今回で23回目となります。

1日目は、冒頭、同協議会会長の原田隆行九州森林管理局長より「日本の森林・林業の再生に向けた取組と、林業成長産業化や地球環境への貢献などを推進することが重要課題である。今回の発表は九州における諸問題を的確に捉えたテーマであり、研究成果に期待するとともに、本大会を契機に相互の交流が一層盛んになり、九州の森林・林業の再生に向け取り組まれることを期待する」と挨拶。

その後「森林技術部門」と「森林保全・森林ふれあい部門」の2会場に分かれ、一般の部30課題の発表を行いました。

2日目は、高校生の部8課題の発表を2会場に分かれ行い、熊本・大分・佐賀県の林業関係の高校生が、日頃取り組んでいる活動について発表を行い2日間にわたる発表が終了しました。

その後、特別講演として鹿児島大学農学部寺岡行雄教授より「林業成長産業化に向けたスマート林業の展開」と題し講話をいただきました。

特別講演の寺岡教授

最後に、審査委員長の（国研）森林総合研究所九州支所木口実所長より各発表について審査講評があった後、九州林政連絡協議会長賞（一般の部：最優秀賞2課題、優秀賞6課題）及び、九州森林管理局長賞（高校生の部：最優秀賞1課題、優秀賞3課題）の発表があり、受賞者へ表彰状を授与し、2日間に渡る発表大会を終了しました。

（担当＝技術普及課）

38課題の中から評価の高かった一般の部8課題・高校生の部4課題を表彰

平成29年度森林・林業技術交流発表大会において、受賞された課題と発表者は次のとおりです。

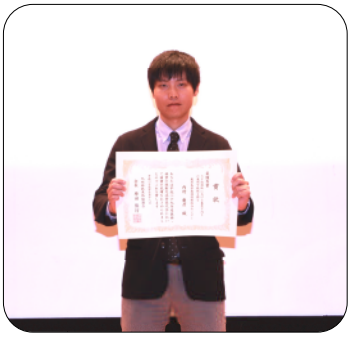
【一般の部】

九州林政連絡協議会長賞

最優秀賞（2課題）

◇スギ造林地における春季下刈りの適用可能性を探る◇
鹿児島県森林技術総合センター　内村　慶彦

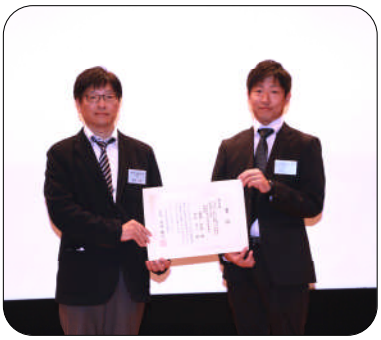
◇虹の松原保全・再生対策について（経過報告）◇
NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE（カンネ）　藤田　和歌子
佐賀森林管理署　日田　仁志
朝田　清子


最優秀賞の（左：藤田氏、朝田氏、日田氏）（右：内村氏）

優秀賞（6課題）

◇主伐・再造林の課題へ果敢に挑む！　～中部地区森林資源循環促進部会の取組～◇
大分県中部振興局農山漁村振興部　井上　八州人

◇美里町における農業改良普及センター等と連携した椎茸生産指導の取組◇
宮崎県東臼杵農林振興局林務課　梶原　和徳
世見　淳一



優秀賞の（左：梶原氏、世見氏）（右：井上氏）

◇動物の五感のうち、味覚・臭覚・聴覚・視覚の四感を複合した、ヤクシカの誘引手法等の検討について◇
屋久島森林生態系保全センター　渡邉　昭博
三國　卓裕

◇金峰山ヒノキを後世に！～地域の特性を活かした森づくり～◇
熊本森林管理署　山部　紗耶佳
松井　涼太
山田　協

優秀賞の（左：山田氏、山部氏、松井氏）（右：渡邉氏、三國氏）

◇京築（けいちく）のヒノキと暮らすプロジェクトの取組み◇
福岡県行橋農林事務所林業振興課　前田　繁樹
髙橋　滝夫

◇森林教育におけるモデルプログラムの創出について◇
長崎森林管理署　都　賢太郎
諫山　雄一郎

優秀賞の（左：諫山氏、都氏）（右：高橋氏、前田氏）

【高校生の部】

九州森林管理局長賞

最優秀賞（1課題）

◇バークを中心とした循環型農業　校内から地域へPart Ⅳ～バークマットの農家への定着と大量生産に向けて～◇
大分県立玖珠美山高等学校　有吉　ひかり
高口　志穂
宇田　未夢

優秀賞（3課題）

◇竹を活用した防護柵の製造について◇
大分県立日田林工高等学校　黒木　いろは
梅木　優作
河津　海斗

（3頁へ続く）

◇森で楽しむための森育活動の実践～森を歩き・森に学び・森で癒やされる～◇

熊本県立芦北高等学校
倉本 あやめ
山本 真帆
髙嶋 海斗
長尾 楓花
石井 竜太郎

◇白砂青松を世界へ発信～虹の松原と紡ぐ未来を目指して～◇

佐賀県立唐津南高等学校
中山 凜人
古舘 敦希
中山 栞
松本 美穂
前田 常至
藤川 天
瀧浪 零可
杉岡 真奈

（担当＝技術普及課）

最優秀賞の玖珠美山高等学校の皆さん

優秀賞：日田林工高等学校の皆さん

優秀賞の芦北高等学校の皆さん

優秀賞の唐津南高等学校の皆さん

壮大な松林を目指して

【鹿児島森林管理署】10月19日当署と入来浜自治会において、多様な活動の森における国民参加の森林づくり活動「入来浜白砂青松の森林（もり）」の協定を締結しました。

入来浜は、鹿児島県薩摩半島の東シナ海に面した日本三大砂丘の一つである吹上浜の一部で、当署堀川国有林などを含み、吹上の代表的な観光地となっていますが、近年、松林は松くい虫被害や不法投棄などが発生しています。

このような状況の中で、入来浜自治会では、昔ながらの松林の復活を目指して色々な活動をしてきましたが、地区の方だけでは難しい事もあり各種団体などに働きかけを行い、松林づくりの体験活動を行い訪れる人々を増やし地域の活性化につなげたいとの申し出があり、国有林が提唱する「国民参加の森林づくり」に参加されました。

この協定締結により、昔のクロマツの壮大な松林を目指し、健全な松林の復活のために森林整備や植栽の体験活動などを実施していくこととしています。

協定を締結した自治会（左）と鹿児島署

屋久杉土埋木を販売

【屋久島森林管理署】10月4日、鹿児島県木材銘木市場において銘木市が開かれ、当署から屋久杉土埋木約80立方㍍及び台風などにより倒木したツガ約8立方㍍を出品しました。

当日は、鹿児島県内から各種銘木が出品され、全国から多くの買方者が参加する中、市場の柴立鉄彦代表理事の開会挨拶、当局田口護次長の来賓挨拶のあと、屋久杉土埋木を皮切りに市売が開始され、屋久杉土埋木、ツガが競り子の威勢の良い掛け声とともに、次々と競り落とされていきました。

その結果、最高値は屋久杉土埋木で立方㍍あたり約230万円を越える値がつくとともに、平均入札単価は立方㍍あたり約54万円で取り引きされました。

また、この市売の様子を報道機関が取材するなど、屋久杉土埋木への関心の高さがうかがえました。

当署では、屋久杉土埋木が貴重で限りある資源であるため、少しでも細く長く生産・販売が出来るように取り組むとともに、引き続き関係機関と連携しながら、屋久島の杉人工林の需要拡大にも取り組み、収入確保に努めていく考えです。

挨拶する田口次長

市売りの様子

森林・林業・国有林について

☆ 井上　栄次郎 さん

現在、私は鹿児島県霧島市に住んでいます。国分平野が広がり近くは城山、霧島山、上野原の山、桜島など見える場所にあります。天降川が流れ上流では鮎漁が盛んで素晴らしい光景です。霧島市下井地区の錦江湾の眺めも絶好の場所です。

私自身は、高等学校で都市工学に関して学び、今は会社員として働いています。山々のマイナスイオンが素晴らしいと思いました。たまに、土日を利用して鹿児島県姶良市の県民の森へ行って長尾山へトレッキングに行ったりして楽しんでいますが、針葉樹がある山々は素晴らしいです。

話は変わりますが、以前大雨や台風などで鹿児島県中央部を流れる天降川の水位が上がり、上流から下流に土砂や木材が流れ大変危ない状態となり、決壊寸前でした。堤防関係も重要な役割だと思いました。山崩れも危ないと思いました。道路近くまで土砂が流れ大変だと思いました。いつどこで自然災害が発生するかわかりませんので、日々の危機管理が最重要課題だと思っています。

これから、全国各地で地震・台風・大雨など自然災害が起こる危険性があるのでお互いの助け合いが必要です。昨年の熊本地震では鹿児島も震度5強の揺れを観測し家も横揺れして恐かった思いから2度と起こらないでほしいものです。道路について日頃から災害時に通行可能な道路の維持整備が必要だと思っています。

また、全国的に野生鳥獣被害が深刻になっている中、絶滅危惧種がありどうしても天然記念物で残してほしいです。特に、鹿児島県奄美市に生息中のアマミノクロウサギをどうしても残してほしいです。アマミノクロウサギがヤマネコの被害に遭ったり自動車に轢かれたり可哀想で自然保護が必要だと思いました。アマミノクロウサギが生息する所にバリケードを張ったりして保護する必要があると思います。私も鹿児島県奄美市へ行く機会がありましたら是非アマミノクロウサギの保護活動など参加したいと思っています。

鹿児島県では台風など被害がある時爪痕が残り道路の頭上に大きく傾いた杉の立木を見たりします。指定管理者に頼るだけでなく林野庁が先頭に立って各省庁との垣根を越えた取り組みが必要だと感じており期待しています。

最後に、木材生産でなく自然環境保全になるような森林づくりを望んでいます。これからも国有林モニターとして全国各地の森林・林業・河川・港湾などまわり研究したいです。

（鹿児島県霧島市在住）

支援協定を再更新

【屋久島森林管理署】10月13日、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会とアサヒビール株式会社は、「レクリエーションの森の整備・管理及び活用に関する支援協定」（オフィシャルサポーター）の有効期限を再更新する調印式を屋久島町役場本庁で行いました。

この協定は2008年8月に締結し、12年11月に更新され今回さらに5年間延長する協定であり、アサヒビールは協定締結以来10年間年間30万円の資金提供と、社員のボランティア活動によるヤクスギランドなどの環境保全美化活動への労務提供を行ってきました。

現在、九州局管内においてオフィシャルサポーターは2社しかなく、制度創設時から長年にわたり活動しているのは、アサヒビールだけとなっています。

協定式では、アサヒビールの星野大介鹿児島支社長とレク森協議会会長代理の岩川浩一屋久島町副町長が協定書に調印を行うとともに挨拶・謝辞が行われた後、調印式の立会いを行った当署川畑充郎署長から「この取り組みは全国でも優良事例であり、現在レク森来訪者の約1割が外国人であることから、アサヒビールの社会貢献活動の取り組みは世界の方々へも寄与しており、これから益々のご支援を期待します」との挨拶がありました。

また、翌日の14日には、小雨の中を協定に基づくボランティア活動をヤクスギランド内で行い、参加者数もこれまでで最も多い総勢70人が7班に分かれて、遊歩道の苔落としの清掃作業を行いました。参加者が汗だくになりながら木道や手すりを磨いて頂いたお陰で、ヤクスギランドの遊歩道が見違えるほど綺麗になりました。

屋久島署及び保全センターでは、今後ともレク森保護管理協議会やオフィシャルサポーターなどの関係者と連携・協力して、屋久島自然休養林の活性化に努めていく考えです。

支援協定締結式の模様

国有林材供給調整検討委員会を開く

～機動的な生産体制の検討を示唆～

9月27日、本年度2回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開き、各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しないが、地域や品目によっては不足感があることから、生産事業の早期発注完了と生産の加速化に努める。また、原木不足や価格高騰による国産材離れを防ぐためにも、需要の急増時に対応できる機動的な生産体制について検討していく必要がある」との検討結果となりました。

各委員からの意見を聴取した委員会の様子

各委員からの主な意見は次のとおりです。

○需給が逼迫する中、原木市場の約4割を輸出業者が買っていくこともある。秋需に向けて国内需要にもっと目を向けるべき。森林組合としては、齢級構成の平準化のためにも伐採・更新を進めていくこととしているが、立木価格が上がらなければ森林所有者の経営意欲に繋がらないなど、理解を得づらい状況にある。国有林材の供給調整の必要はない。

○生産量を増やすためには、人手の確保や古くなった林業機械の更新が必要。また、広いエリアで生産計画を立ててコスト縮減を図ることも必要。需要急増時の増産については、これまで、出材が後手に回るなど機動的に対応できていなかったことから、早めの情報共有が必要。国有林材の供給調整に異議はない。

○九州北部豪雨や台風の影響により、出材減が見込まれる。一方、大型製材工場や輸出、2×4材など需要は増えており、今後の価格動向は不透明な状況。木材需要はこれまでにないくらい盛り上がっており、供給側は、安定した価格で、欲しい時に必要な量をきちんと供給する必要がある。サプライチェーンを構築して取り組まなければ、大きなマーケットには対応できない。安定供給には、継続的な生産と需要に見合った生産のバランスが大事であり、国有林材の生産は出来るだけ前倒しでお願いしたい。

意見を述べる各委員（上・下）

○九州北部豪雨の流木処理に林業機械を使用しており、一部の地域で素材生産に影響を及ぼしている。住宅需要に加えて非住宅の大型物件が各地で動き始めており、今後、原木需給に逼迫感が増すことが懸念される。国有林は計画通りの出材をお願いしたい。

○製材はKD材を中心に引き合いが多く、価格が上がっている。原木についても不足気味となっており、その上これ以上価格が上がると4年前のように国産材離れに繋がる恐れがある。国産材はようやく安定供給される材として位置づけされてきたが、継続して価格も量も安定した材と思ってもらうためにも、国有林は出材を増やして欲しい。住宅メーカーなどの需要者の立場からすれば、木材価格は今が限界であり、山元だけを考えて価格を上げても敬遠されてしまう。素材生産や流通、製材工場が連携してコストの低減を図り、価格を上げずに山元に還元していくことが必要。

○国産合板は、好調な住宅着工や耐力壁としての使用の増加などにより、フル生産しても足りない状況。台風などの影響により出材量が落ちていることや、住宅秋需の影響で製材工場の原木購入意欲が強いことから、原木在庫が減っている。原木の安定供給が必要であり、国有林は前倒しで出材してほしい。

○製紙用チップは、紙の原料の一つである新聞古紙が入手しづらい状況にあり、需要が活発化しているが、紙の価格が上がらないため、チップ価格は横ばいである。バイオマス用原木は、未利用材の出材が減り、高値が継続している。国有林材の供給は現状のままでいい。

（担当＝地域木材情報分析官）

保護林管理委員会を開催

10月2日、今年度第3回目の九州森林管理局保護林管理委員会を開きました。

冒頭、原田隆行九州森林管理局長が「これまで、やんばる地域の保護林設定についてご検討いただいてきた。今回は、どの区域に保護林を設定するのかご議論いただき概ねのご了解をいただきたいと思っている。また、宮崎県の猪八重川源流域にある猪八重地区の保護林設定についてもご議論いただくこととしている。やんばる地域の国有林については、将来にわたって保護と利用をどう調和させるのかなどについて、忌憚のないご意見をいただきたい。保護林設定を世界遺産の登録につなげるための提言をお願いしたい」と挨拶。

その後、事務局から、「やんばる森林生態系保護地域（仮称）設定（案）」「猪八重地区における保護林の設定」「新たなモニタリング調査マニュアル（報告）」について、説明を行いました。

挨拶を行う原田局長

意見を述べる各委員（上・下）

やんばる森林生態系保護地域（仮称）については、7月に開いた現地検討会及び第2回保護林委員会の審議結果と、8月に実施した追加調査の結果を踏まえ、やんばる森林生態系保護地域（仮称）の新たな設定（案）を提示して審議を行いました。

主な意見としては、

○「首里城古事の森」は首里城の修復材を提供するのため将来的に伐採することから保護林外とすることは理解するが、保護林に隣接することから施業方法等具体的な取扱いや今後の計画を示しておくべきではないか。

○安波川の最源流域にあって、生物相のつながりの上で重要な位置にある63林班の勅令貸付地（県営林）については、保全する方向での取扱いが出来ないかとの意見が保護林委員会で出たことを沖縄県に対し伝えられないか。

○42・43林班の東側は保護林設定外とするが、ただ従来どおりの森林施業を行うのではなく、豊かな照葉樹林へ修復するための試験地を設定する等有効活用してはどうか。

○タナガーグムイの植物群落を保護林に含めることでよいが利用を含めた今後のあり方については、地元の意見を踏まえて引き続き検討することとしてはどうか。

などが出されました。

また、**猪八重地区の保護林設定については、**

○原生的な照葉樹林がまとまった形で存在しており極めて重要である。

○イチイガシ、ハナガガシなどの高木が主体となった森林は貴重であり早期に保護林設定を行い、保全を図るべきである。

○保護林設定予定地に隣接している「レクリエーションの森」内の貴重な森林についても、保護林を拡大して含めることが出来ないか。

などの質問や意見をいただきました。

今後は、いただいた意見を踏まえた上で、さらに現地の実態に即した修正を加え、次回の委員会で両保護林の区域を確定することとしています。

（担当＝計画課）

保護林管理委員会の模様

救急法講習会を開く

～緊急時の対応や心肺蘇生法等を学ぶ～

10月3日、当局大会議室において、国家公務員健康週間中の行事として、「救急法講習会」を開き、多くの職員が参加しました。

当日は、熊本西消防署池田庁舎より5人の方が講師として来局、緊急時の対応についての講話及び実技として、心肺蘇生法・AEDの使用について講習が行われました。

講話では、映像による「緊急時の対応について」を鑑賞した後、講師から、質問を交えながら人が倒れていることを想定し①声を掛けるときは、倒れている人の前面から小さな声から徐々に大きな声を掛ける②意識がなければ119番通報③できるだけ人を集める④呼吸を確認する⑤呼吸が止まっていると感じたら、心臓マッサージ及びAEDがあれば使用し、救急隊が到着するまで続ける、など緊急時の対応について順を追って説明がありました。

その後行われた実技では、参加者を3班に分け、それぞれの班ごとに、マネキンとAEDを使用して、心肺蘇生法とAEDの使い方について学びました。

各班とも、これまでに講習を受けた経験者がほとんどでしたが、心臓マッサージでは、「あんたがたどこさ」を口ずさみながらリズムを確認するなど真剣に取り組んでいました。

講話の様子

AEDを使い心肺蘇生を行う職員

緊急時には、スムーズな対応が重要なことから、いざという時に慌てないためにも、日頃からの心構えを再確認した講習会となりました。

（担当＝総務課）

健康管理医等が講話

【大分西部森林管理署】国家公務員健康週間の実施に伴い、10月3日、当署の健康管理医及び心の健康づくり相談員の先生を講師に招き、職員へ講話をいただきました。

健康管理医である秋吉貴文先生（日田市秋吉医院院長）からは、感染症やアルコールの摂取による身体への影響や、体質改善に効果的な運動などについて、心の健康づくり相談員の西村薫先生（別府溝部学園短大教授）からは、人間独特の情報認知のしかたなど心理学に基づく知見について解説を交えながら、自分をいたわる方法やストレスへの対処法などについて、教示いただきました。

先生方からの楽しくわかりやすい講話に、職員からも活発な質疑があるなど、健康保持への動機付けを得ることができた講話となりました。

また、当日は、署員が一堂に会する機会を捉えて、飲酒運転撲滅に向けた普及啓発動画を視聴し、本人や周囲に及ぶ甚大な影響を再認識したほか、健康診断を確実に健康管理につなげるメリットについて話し合いを行い、有意義な1日となりました。

熱心に講話を聞く職員（大分西部署）

救急法の大切さを学ぶ

【鹿児島森林管理署】10月6日、当署入札室において鹿児島市消防局中央消防署上町分遣隊の職員3人を講師に迎え、安全勉強会の一環として救急法訓練を行い、多くの職員が参加しました。

訓練では、救急車が到着するまでの救命処置の手順について講義を受け、参加した職員全員がマネキンを使って、1分間の胸骨圧迫を行いました。

また、3人が一組となり、マネキンを傷病者に見立て、傷病者の周囲の安全確保から意識・呼吸の有無を確認、胸骨圧迫を行うとともに、119番通報とAEDの手配から使用などを体験、参加した職員は緊張感をもって最後まで真剣に取り組んでいました。

最後に、消防署職員の方に日頃の活動への感謝を伝えるとともに、人命尊重を基本理念とした救急法の大切さ、当署における無災害の継続を確認し、救急法訓練を終了しました。

救急法を実践する職員（鹿児島署）

中学校で森林教室

【屋久島森林生態系保全センター】 9月21日、屋久島町立安房中学校において、1年生31人を対象に「屋久島の自然について～外来植物とヤクシカ～」と題して森林教室を開きました。

外来植物については、屋久島に繁殖している外来種、特にアブラギリを中心に、外来植物がおよぼす造林木の生長阻害や在来植物の衰退など自然界への影響を中心に講義しました。

また、ヤクシカについては、生態や全国的なシカ被害の実態を説明した後に、当センターで作成した「森林生態系を知る・考える学習ゲーム『シカと森林のカード（屋久島版）』」を用いて、森林生態系維持の重要性について学習しました。

生徒達は、シカが増えすぎると森林の動植物へどのような影響が出るのか、森林をどのように守ればいいのかなど、屋久島の自然を守ることを基本にグループで考えながら、ゲームを楽しむとともに屋久島の自然について理解を深めていました。

ゲームで学ぶ生徒たち

地元関係者と研修会

【北薩森林管理署】 9月27日、宮之城ロータリークラブからの依頼を受け、当署会議室において、「北薩地域の国有林における森林管理行政について」をテーマに、地元の会社経営者・商工会関係者ら8人と研修会を開きました。

研修会では、冒頭に前田孝明宮之城ロータリークラブ会長から「前々から森林管理署との交流を考えていた。森林（国有林）は地元の宝、本日を切っ掛けに意見交換し、一体となり子供たちが森林へ親しむ機会を増やしていけたらと考えている」と挨拶がありました。

その後、当署前田三文署長から「国民の森林国有林」（林野庁パンフレット）や九州の木材関係データなどを使用して、国有林の概要や取り組みなどを説明し、質疑及び意見交換を行いました。

意見交換では、今後のロータリークラブの取り組みや森林管理署との交流などについて意見が出されるなど、有意義な意見交換が行われ、研修会を閉会しました。

説明を行う前田署長

研修会に参加された皆さん

ドローン研修を実施

【屋久島森林管理署】 10月12日、本年度第2回の屋久島林業推進検討会の定例会を、当署、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町、鹿児島県森林整備公社、屋久島森林組合及び島内の林業・木材産業関係者を含む34人で、太忠嶽国有林において開きました。

定例会の中で当署からは民有林関係者から要望のあったドローン研修を行い、本年植栽したヤクスギ苗木の生育やシカネットの状況確認をドローンにより行いました。

冒頭、当署川畑充郎署長から、「本年6月に屋久島町とは協定を締結しドローンによる協力体制は出来ている、民有林関係で当署が協力できることがあれば気兼ねなく相談してほしい」と挨拶。続いて、植薄和彦森林技術指導官から災害調査や種子着果状況確認など当署で実施しているドローンの活用事例を説明しました。

次に、山邉隆広総括森林整備官からドローンを飛行させる際のルールなどの説明を行った後、井誠喜森林官と永野達也地域技術官がオペレーターとなり、実際にドローンを植栽地内で飛行させるとともに、参加者にドローンの簡単な操作を体験して頂きました。

参加者の中には初めてドローンをみる方も多く、「色々なことに使用できそう」「民有林の森林現況調査などにも利用させてほしい」などの意見が聞かれました。

当署では、民有林関係者からの要請に応じ、民有林内でのドローンを活用した取り組みを積極的に進めていく考えです。

ドローン（左上）の飛行

川畑署長の挨拶

苗木生産協議会を設立

【屋久島森林管理署】10月12日、当署会議室において屋久島地杉苗木生産協議会の設立総会を、当署、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町の行政機関関係者がオブザーバーとして立会いのもと、島内苗木生産関係事業体4社が参加して開催しました。

この屋久島地杉苗木生産協議会は、屋久島内における苗木生産体制の確立を目的に将来に向けた島内の苗木需要に対応するために、これまで1社での苗木生産体制から新たに3社が加わり協議会を設立するものであり、鹿児島県屋久島事務所などが関係事業体と調整して設立の準備を進めてきたものです。

設立総会では、屋久島森林組合の寺田総務課長の司会進行により、まずは協議会の設立について関係事業体から正式に同意が得られたのち、規約（案）及び役員の選任（案）の承認、今後の活動計画等について協議が行われました。

最後に関係行政機関を代表して川畑充郎屋久島森林管理署長から、「本協議会の設立は、屋久島林業の復活のための歴史的な第1歩であり、チーム屋久島として事業量の確保や各種支援対策を講じていきます」との挨拶がありました。

この度の協議会の設立により、現在屋久島で最も課題となっていたヤクスギ苗木の安定的な生産をできることが期待され、今後増加する主伐・再造林を進めるための大きな起爆剤になることから、当署としては引き続き関係機関と連携協力しながら支援していく考えです。

設立総会の模様

「森林のアートギャラリー」作品展示のお知らせ

九州森林管理局では、今年も「森林のアートギャラリー」の作品展示を行います。

今回は、熊本市内の中学校から応募のあった60作品の中から６作品を選出、11月19日に表彰式とお披露目（除幕）を行うこととしています。

作品は、19日以降当局正門右側と東側フェンスに展示しますので、来局の際やお近くにお越しの際は中学生の力作をぜひご鑑賞ください。

なお、この表彰式・除幕式の模様は広報九州12月号に掲載の予定です。

（担当＝技術普及課）

昨年の表彰式・除幕式の様子

「森林のアートギャラリー」の作品展示箇所は左図のとおり

自然観察会を開催

【熊本南部森林管理署】球磨郡湯前町の湯前国有林周辺において、当署主催、球磨地域振興局共催による、山の日記念イベント「森の恵・自然観察会」を開き、一般参加者及び当署職員など約20人が参加しました。

観察会には、講師に環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、植物の薬効や人の暮らしとの密接な関わりなどについて、ユーモアあふれる説明があり、参加者は真剣にメモを執りながら聞き入っていました。

当日は、あいにくの小雨交じりの天候でしたが、参加者は野鳥や虫の鳴き声にも耳を傾け、秋の気配を感じながら自然にふれあう一日となりました。

雨の中植物について学んだ観察会の様子

都会の中の憩いの森
監物台樹木園の多様な植物

⑫⓪ ツノハシバミ（カバノキ科）

山中に生える落葉低木で、日本全国に分布しています。五ヶ瀬町の白岩山（果実の写真）やヒゴタイキャンプ場で見られる。熊本県植物誌は「梢普通」で温帯、落葉林内ではやや普通に見られるとなっています。

果実が独特で「果実は堅果で、果実を包む総苞は1～4が集合し、総苞は筒となって、先は長くくちばし状に伸び、先端は歯牙状に短く細裂、外面には密に刺毛がある」と図鑑の説明があり、観察したら絶対に忘れられない果実です。

葉は互生し葉柄があり倒卵形ないしは楕円形で先端は鋭尖形縁には細かい不規則な二重鋸歯（重歯牙状細鋭鋸歯縁）がある。この特徴を覚えるとアズキナシやウラジロノキと間違うことはありません。

雌雄同株、雌雄異花で花があったらしっかり観察しましょう。雌花の赤い花柱が芽鱗の外に現れているのにびっくりされるでしょう。

見分ける観察点は、葉の上面は脈間に、下面は脈上に葉柄と同様に毛があることです。

樹木園の中央、東側に、高さ約1・5㍍のツノハシバミが一本あります。花や総苞を観察したことはありませんが、葉の特徴は目の高さで観察、確認できます。

監物台樹木園の多様な植物が、今月号で120号・10年に渡る掲載となりました。掲載10年を記念し、執筆者の森林インストラクター安樂行雄さんに、これまでのご苦労やこれからの思いについて寄稿いただきました。

監物台樹木園の多様な植物 連載10年を迎えて

安樂 行雄 さん

時の広報室長寺床さんから広報の保護林の連載が終わる、樹木園の植物の連載をお願いしたいとの依頼に応えて書き始めて10年が経った。

毎月掲載されることからOB、関係者、職員の皆さんの読者を思い浮かべながら、植物に関心のない人も読まれることを念頭に、エッ、マサカ、ウソッ、ホントウと、植物の不思議を探しつつ、名前の語源も興味のあるところと思って書きました。

1992年に森林インストラクターに合格してからの、植物会の観察会はそのような植物の不思議を探し出す日々であった。主催している森林生態系同好会（通称FEC）は毎月1回の活動、29年目、今月で347回の活動を続けており、この植物会観察会が、私の植物観察活動の源泉であり、原稿の下調べに役立っている。

私は冗長な散文を書くのには慣れているが、1植物について400字から500字以内にまとめることは並大抵の苦労ではなかった。特に植物について基本的な学習はしていないから、あっちを書き、こっちを書き、そうこうしているうちに500字を超えてしまう、とうとうまとめられない、そんな試行錯誤を繰り返しながら、近ごろやっとまともに?書けるようになったと自己満足しています。

樹木園へ観察に行くと足が止まってしまい、つい長時間の観察になる。四季それぞれに、朝夕でも違った表情が観察できる。改めて、原稿に書いた樹木の特徴を再検討すると、書きたいことのほんの一部分しか書いてないことに気づき、反省しきりです。

編集部の皆さんが、駄文の連載を我慢強く掲載を続けて頂き、深く感謝しています。

樹木園の樹木たった120種類の掲載が終わっただけである。樹木園にはまだ多くの種類があり15年・20年連続掲載を目指したいと思っています。

皆さんのあたたかいご愛読とご指導を期待しています。

みどりの散歩路

広報九州の中でも特に皆さんに好評いただいています「監物台樹木園の多様な植物」が、今回で120号を迎えました▼2007年7月号の「ヤクタネゴヨウ」から、森林インストラクター安樂行雄さんに、監物台樹木園内の様々な植物を取り上げていただきました▼120回10年に渡り寄稿いただいた安樂さんには、心から御礼申し上げます▼今月号には執筆に際しての苦労話などを寄稿いただいています、皆さんぜひともご一読ください▼さて、今回第1号の記事確認と併せて07年7月号の掲載記事を見てみると、10年前の様々な取り組みを見ることが出来ました▼九州森林倶楽部やフォトコンテストなど懐かしい記事の中に、当誌が林業関係広報コンクールで奨励賞を受賞との記事がありました▼当時の広報担当の苦労と努力が認められた結果であり、担当者の喜びはひとしおだったと思います▼10年を経て現在の担当として、なお一層の努力が必要だと反省するとともに、親しまれる広報誌となるよう紙面の充実に努めていきたいと思います。（も）